

令和3年度 あきたスマートカレッジ C講座内容報告

☑ チャレンジゼミ

地域課題や状況の変化に対し、地域の企業や大学がもつ専門分野や教育資源を活用しながら、共にできることを柔軟に考えて、価値観や視野を広げる講座です。体験型の内容を取り入れる講座もあります。

日 時			テ ー マ	講 師
C1	9/25 (土)	10:00～11:30	【実習】想像力と創造力を育む 3D ペン制作 (障害のある方にオススメ)	ジーニープログラミングスクール マネージャー 佐々木 聡 弥 氏
C2		13:30～15:00	【実習】想像力と創造力を育む Scratch プログラミング (全員にオススメ)	
C3	10/23 (土)	10:00～11:30	【講話・グループワーク】外国人受け入れと社会のかたち ～世界と日本の事例から～	国際教養大学 国際教養学部 グローバル・スタディス課程 助教 堀 井 里 子 氏
C4		13:30～15:00	【講話・グループワーク】コロナ禍後の社会はどうか ～ビジネスの新しいカタチ～	
C5	11/20 (土)	10:00～11:30	【講話・グループワーク】Youは何しに秋田へ ～ロシアとベトナムの暮らし方や考えから、コロナ禍での生活改善について話し合おう～	泉 スベトラーナ 氏 グエン バオ ユイ 氏
C6		13:30～15:00	【講話・実習】定住外国人をとりまく日本語支援の現状と課題 ～なんのために日本語を学ぶのか～ (のしろ日本語教室を体験しよう)	
				のしろ日本語学習会 代表 北 川 裕 子 氏

C1、C2は講師の都合のため、開催を中止しました。

☐ C3 堀井氏は、移民/外国人の受け入れのかたちとして、①日本の文化様式になじませるような支援と、②アイデンティティや慣習を尊重し、その維持を積極的に支援することが大切であると強調しました。そこで、①②の良い点と懸念される点を参加者に考えさせるエクササイズを行い、全員に発言してもらいました。発言内容を受け、移民とその子孫の人口が3割程を占めるスウェーデンの「多文化共生政策」を紹介し、移民の文化継承や母語教育政策、就労・居住、地域の人との交流の促進、子どもの学習権の保護、第二外国語としてのスウェーデン語の提供があることを教えてくれました。後半のエクササイズでは、グループで秋田県が対応すべき支援や配慮を話し合いました。移民/外国人が秋田をふる里とみなすためには、地域住民が自分事として捉え学ぶ姿勢が必要であることを学び取っていました。



☐ C5 泉氏より、ロシアでの学校生活やイベントでの過ごし方を例えに、コロナ禍での生活改善に向けた考え方のヒントをユーモアを交えながら紹介いただきました。ロシアの学校ではクラス替えがなく、クラスメートと10年間一緒に過ごすそうです。家族に近い関係になり、いじめやひきこもりのような問題はまず無いと語られました。また、先生は生徒がわからない問題があれば、授業が終わってからも徹底的に教え、学校で解決していくそうです。このように、ロシア人は幼少期から鍛えられる環境があるため、精神的に強く、取り組み方が徹底していると話しました。このコロナ禍でもその国民性はストレスに対してタフで、泉さん自身も自分でできることに挑戦し続けていくことで気持ちを上げているとお話してくださいました。(講師の都合によりベトナムについての講話は中止。)

